

小京都

今回は、日本出張のついでに寄ってきた“小京都”についてです。

4月に、クライアントを訪問するため日本出張をしました。それに合わせて、ニューヨークに住む私の友人も休みをとって一緒に訪日してくれました。松山旅行の記事を書いたときに紹介した彼ですので、読者の皆さんも「あの人か」と思い出されるかもしれません。

彼とは2003年に香川県で知り合ったのですが、今でも私の日本出張に合わせて日本に来て私と一緒に旅行してくれることが多いのです。毎回の旅行の目的は、二人の知らない街を訪れて、そこを知り尽くそうとすることです。その場合、いつも頭の中に漂っているイメージは“京都”です。JRのキャンペーンのように「そうだ京都、いこう」というのが我々の思考の基本です。二人とも日本人ではありませんが、京都は故郷のような感じなのです。

しかし、京都には何度も行ったので、今回は“小京都”と称される金沢に行くことにしました。日本海側にはあまり行ったことがなく、日本海に面した金沢には今まで見たことのない風景があるだろうと大きな期待をして訪れました。

滞在期間は一日半しかなくて、二人の観光は多忙でした。東京から列車に乗って真夜中近くに着き、片町のビジネスホテルを宿にしました。

東京からの旅の疲れもあり、すぐに寝るべきだろうと思いつつも、空腹の苦痛の方が勝って真夜中に食事に出かけました。ホテルで紹介してくれた粋なバーのマスターさんは、おつまみとしてパスタなどを夜遅くまで出しています。それを食べたのですが、とても美味しかったです。



翌朝、さっそく観光に本気を出しました。金沢は本来の姿だけで十分に魅力的な街ですが、我々が訪れたときには桜が満開で、街の美しさが倍増していました。例年より寒かった冬のため、我々は運がよかったようです。

ホテルから兼六園がすぐでしたので、まずは兼六園へ向かいました。ただし、ここでも空腹には勝てず、途中の喫茶店でモーニングをいただいてから兼六園の南口を入りました。

入るとすぐに、桜の花の薄ピンク色を存分に反射させている池に出会いました。美しい！記事では写真が白黒になるため、色彩の美しさを伝えられないのが残念です。

一年に一度だけ満開の花をつける艶やかな桜の木々と、それを鮮やかに反射させる池。年に一度しかない演奏のように全ての努力を込めて実現してくれた自然のオーケストラ。そして、その「演奏」の聴き役を務めるかのように、白鷺が不動の姿勢で池の岩をひとり占めしていました。彼は、誰の身代わりとしてそこに登場しているだろうかと考えてしまいました。

兼六園の様々な小路を、小川、木々を眺めながら進んで北口を出ると、さらにひがし茶

屋街まで歩きました。京都の古い小路を思い出させるひがし茶屋街の伝統を保った風景はとても懐かしい感じがしました。

二人の30代のアメリカ人が日本の伝統的な雰囲気懐かしさを感じるのには変だと思われるかもしれませんが、少なくとも懐かしさに近い穏やかな気持ちを持ったことは間違いありません。何十年も前に録音されてノイズが入った音楽やセピア色に変色した写真などと同様に、自分の過去になかったことなのに懐かしさを感じる、そのような感慨だと思っていただきたいです。

ひがし茶屋街の裏道で偶然に見つけた小さな喫茶店で、我々は抹茶セットを注文しました。抹茶が綺麗な茶碗で出され、金箔が少しふりかけられた饅頭も付いてきました。その喫茶店は店と言えないほどに小さく、訊いてみたら持ち主のお姉さんが自分の家の一部屋を去年お茶屋に変えたのだと説明してくれました。

多くの家の軒先にトウモロコシがかけられていました。「なんだろう?」と思っていましたら、観音院で祈祷を受けたトウモロコシで、家内安全や厄除けのご利益があるのだそうです。写真の仏像は、訪れた観音院の白寿観音様です。私はこの仏像の優しい雰囲気がとても気に入りました。

その日の夕食は、土地の皆さんから是非金沢の海鮮を食べてみてくださいと何度も薦め



られましたが、結局、片町のスクランブルにある焼肉屋で、とろけるカルビをたらふく食べました。

その後、片町を彼方此方とあてどなく歩きながら、長い長いカウンターがあるカラオケバーを発見して入店しました。少し飲んで他の客の歌を聴きながら、私と友人とが歌を選択しました。私の番がきて歌い出しましたら、突如後ろからドラムの大きな音が聞こえてきました。振り向くと、そこのマスターが元気に叩いていたのです。後で質問すると、彼は昔バンドに入っていたそうです。彼のドラムに私は励まされ、音痴と思われるかも知れないという恐れは遠のいて、吠え続けるように歌ったのでした。

翌朝、大阪へ出発しました。京都も“小京都”も好いですね。日本にたくさん“小京都”とよばれる地方都市があるので、これからも色々旅してみたいです。



筆者紹介

ネルソン・グラム

U.S. Attorney (Virginia Bar), Global IP Counselors, LLP 所属。

1981年米国バージニア州生まれ。ジョージ・ワシントン大学 (DC) で国際関係論を学びながら、ウルグアイ大使館でインターン。卒業後、2003年渡日、香川県三野町 (現在三豊市) の国際交流協会で一年勤務。うどんが大好物となる。帰国後、ジョージ・メーソン大学ロースクール卒。2008年8月からGlobal IP Counselors, LLPに弁護士として勤務。趣味は読書、運動。好きな言葉は「鳴かぬ蜚が身を焦がす」。